



国連グローバル・コンパクトの10原則を踏まえて、優れた医薬品の創出にとどまらず、グローバルな企業市民活動を推進しています。

タケダは、経営哲学である「タケダイズム=誠実」を旨として事業運営を行うとともに、企業が責任ある企業市民として自主的に行動することを促すための世界的な枠組みである国連グローバル・コンパクトの10原則を支持し、企業活動全般に取り入れています。

2009年度には、グローバル製薬企業の責務として、途上国支援をさらに充実させるために、アジアとアフリカにおける新たな活動を立ち上げました。今後、長期的な視点に立って、継続的な取り組みを進めていきます。



※世界共通の問題に地球規模で取り組むため、2015年までに達成すべき目標として設定されました。詳しくは、P.65を参照ください。



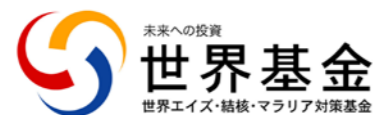
© The Global Fund / John Rae

アフリカにおける活動 → P.64

タケダ・イニシアティブ

2010年3月、「世界エイズ・結核・マラリア対策基金」(世界基金)を通じてアフリカにおける保健医療人材の育成・強化を図る寄付プログラム「タケダ・イニシアティブ」を立ち上げました。

現在、三大感染症といわれるエイズ、結核、マラリアにより、世界で年間約500万人の尊い命が奪われています。途上国においては、その発展・成長に対する大きな阻害要因ともなっており、これらの感染症への対策が、国際社会の重要な課題と位置付けられています。特にアフリカでは、保健医療人材の不足が非常に深刻であり、感染症を克服するために必要な保健サービスの提供に支障を来しています。そこで、タケダは、世界基金のアフリカ支援プログラムのうち、保健医療人材の育成・強化を中心とした保健システム強化に向けた取り組みを支援することとしました。寄付金額は年間1億円で、2010年～2019年までの10年間継続します。主な用途内容は、タンザニア(対象疾病:マラリア)、ナイジェリア(対象疾病:エイズ)、セネガル(対象疾病:結核)の3カ国のプロジェクトへの支援となっています。



欧州における活動 → P.68

欧州の販売子会社が、それぞれNGOなどとの連携を深めながら、独自の企業市民活動をさまざまに展開しています。従業員によるボランティア活動も、積極的に進めています。



アジアにおける活動 → P.65

タケダ・Plan保健医療アクセス・プログラム

2009年8月、「財団法人日本フォスター・プラン協会」(プラン・ジャパン)と連携し、「タケダ・Plan保健医療アクセス・プログラム」を立ち上げました。アジア4カ国において、子どもたちの保健医療サービスへのアクセスを支援しています。



日本における活動 → P.60

長期療養の子どもたちの「生きる力」につながる市民活動を応援する女性プログラムをはじめ、多岐にわたる企業市民活動を推進しています。



米国における活動 → P.66

従業員一人ひとりが参加して住宅・地域施設を修復するNPOの活動や、癌患者さんを支援する活動などを展開しています。



Stakeholder's Voice

タケダ・グローバル・アドバイザリー・ボード(TGAB)®では、医薬品業界を取り巻く環境が急変する中において、タケダのさまざまな経営上の課題について、経営幹部と活発な意見交換を行っています。今後のさらなる持続的な成長を果たすために、タケダは途上国を含む新興国市場にビジネスを拡大していますが、これに伴い、国際社会が抱えるさまざまな課題に対しても、グローバル製薬企業として、相応の取り組みが必要となります。人々の生命(いのち)に関わる企業として、国連グローバル・コンパクトの理念に基づいた、誠実なCSR活動の実践を期待します。

社外アドバイザー Dr. Tadataka Yamada



※タケダ・グローバル・アドバイザリー・ボード(TGAB) グローバル製薬企業のエグゼクティブとしての経験を有する4人の社外アドバイザーから構成される機関。

■社外アドバイザー

- Ms. Karen Katen 元Pfizer副会長、現Essex Woodlands Health Ventures社シニア・アドバイザー
- Dr. Frank Morich 元Eli Lilly CEO兼会長、現同社名誉会長
- Mr. Sidney Taurel 元BayerHealthcare CEO、現NOXXON Pharma社CEO
- Dr. Tadataka Yamada 元GlaxoSmithKline取締役・研究開発最高責任者、現ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団グローバル・ヘルス・プログラム プレジデント